

News Release

2014年4月22日



# ヨ コ ハ マ トリエンナーレ 2014

---

第4回 記者会見資料

参加作家全容、創造界限拠点連携プログラム発表

---

日 時：2014年4月22日（火） 15：00 – 16：00

会 場：横浜美術館 レクチャーホール





## ご挨拶

2001年にスタートした横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展、ナショナルプロジェクトとして、開催を重ねてきました。そしてこのたび、第5回展となるヨコハマトリエンナーレ2014の開幕を約3か月後に控え、出展されるアーティストの方々を発表できる運びとなりました。

横浜市は、文化芸術創造都市「クリエイティブシティ」として、先進的なまちづくりに取り組んでおり、横浜トリエンナーレは、まさにそのリーディングプロジェクトです。これまで蓄積してきた経験、人材、ネットワーク等を存分に活かし、BankART Studio NYK や初黄・日ノ出町地区などの創造界隈拠点との連携を一層進め、横浜の街全体を楽しんでいただけるトリエンナーレとしていきます。

特に今年、横浜市は「東アジア文化都市」の開催都市として、東アジア地域に育まれる豊かな文化芸術の「伝統」と「今」を世界へ発信するべく、中国の泉州市、韓国の光州広域市とともに多彩な文化事業を展開しています。ヨコハマトリエンナーレ2014は、この「東アジア文化都市2014横浜」の中心的事業であり、文化芸術の力による「つながり」「連帯」の更なる醸成も目指していきます。

開催にあたり、多くの方々にご尽力をいただいておりますことに改めて深く感謝を申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ヨコハマトリエンナーレ2014に、ぜひともご期待ください。



横浜トリエンナーレ組織委員会名誉会長代表  
横浜市長 林 文子



## ご挨拶

第5回となる横浜トリエンナーレでは、アーティストの森村泰昌さんをアーティストック・ディレクターに迎え、鋭意準備を進めてまいりました。このたび、出品作家や出品作品など、ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術：世界の中心には忘却の海がある」全体について、皆様にお知らせできる運びとなりました。

2011年の第4回展より横浜トリエンナーレの開催主軸が横浜市に移行し、また横浜美術館が初めて主会場のひとつとなり、横浜トリエンナーレは大きく舵をきることになりました。

第5回は横浜美術館と新港ピアが主会場となり、横浜美術館は、引き続き横浜トリエンナーレの拠点としての役割を果たしてまいります。また、横浜創造都市政策のもと、文化NPOであるBankART 1929や黄金町エリアマネジメントセンターとの協働をはじめとして、象の鼻テラス、急な坂スタジオ、ヨコハマ創造都市センター（YCC）などとも連携する予定で、横浜トリエンナーレの特徴ともいえる展覧会の多様性と地域への広がりを楽しんでいただけるよう邁進いたします。

今回は、忘れ去られているものに注視し、じっくりと向き合うことを促す作品が多く、今までの横浜トリエンナーレとは一味違う展覧会が出現します。

国内外で数多くのトリエンナーレ、ビエンナーレが開催されているなかで、横浜トリエンナーレらしい奥深さと違いを示すことができれば、と願っています。

本トリエンナーレが、アートを通じ、わたしたちの想像力、思考力、読解力を刺激し、多様性や異なる価値観の受容といった人間をめぐる課題に、ささやかな一石を投じる機会となれば幸いです。



Photo : Risaku SUZUKI

横浜トリエンナーレ組織委員会委員長  
横浜美術館館長  
逢坂 恵理子



目次

ご挨拶 林文子 横浜トリエンナーレ組織委員会名誉会長代表・横浜市長	1
ご挨拶 逢坂恵理子 横浜トリエンナーレ組織委員会委員長・横浜美術館館長	2
開催概要	4
トピックス	5
展覧会構成／参加作家	6～24
まちにひろがるトリエンナーレ	25
創造界限拠点連携プログラム	26～27
小・中・高生のためのプログラム／横浜トリエンナーレサポーター	28
チケット情報／交通アクセス・案内図	29
支援／特別協力／後援／認定／協賛／協力／寄付	30
開催実績／横浜トリエンナーレ組織委員会	31



## 開催概要

展覧会タイトル ヨコハマトリエンナーレ 2014  
「華氏 451 の芸術：世界の中心には忘却の海がある」  
Yokohama Triennale 2014 "ART Fahrenheit 451: Sailing into the sea of oblivion"

アーティスティック・ディレクター 森村泰昌

会期 2014 年 8 月 1 日（金）— 11 月 3 日（月・祝） 開場日数：89 日間  
休場日：第 1・3 木曜日（8/7、8/21、9/4、9/18、10/2、10/16）

主会場 横浜美術館 横浜市西区みなとみらい 3-4-1  
新港ピア（新港ふ頭展示施設） 横浜市中区新港 2-5

開場時間 10:00 — 18:00  
[ 月 1 回土曜日（8/9、9/13、10/11、11/1）は 20:00 まで開場 ]  
※入場は閉場の 30 分前まで

主催 横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、  
横浜トリエンナーレ組織委員会

※ 事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」（横浜＝漢字表記）、第 5 回展の事業名は「ヨコハマトリエンナーレ 2014」（ヨコハマ＝カタカナ表記）となります。



## トピックス

### ■ 展覧会の主な特徴

#### 第2弾 55組を発表、計62組の参加作家が決定

第3回記者会見で発表した7組に今回新たに発表する55組を加え、2014年4月22日現在、19か国から計62組の作家の参加が決定しています。最終的には約65組、70名を超える作家の参加を予定しています。

#### キーワード1：「忘却」

「世界の中心には忘却の海がある」という本展のサブタイトルにもあるとおり、本展覧会は、忘却巡りの旅に来場者を誘います。

#### キーワード2：2つの序章と11の挿話から構成される「本」

横浜美術館と新港ピア（新港ふ頭展示施設）の2つの主会場の展示は、「序章」に始まり、「11の挿話」からなる本のように構成されます。

#### キーワード3：「漂流」

さまざまな方角から流れ着いた漂流物が、ヨコハマトリエンナーレ2014という場に一時的に漂着し、やがて離散することを展覧会のコンセプトとしています。開催の時期が重なる「札幌国際芸術祭2014」や「福岡アジア美術トリエンナーレ」も横浜に漂着した芸術祭としてヨコハマトリエンナーレ2014に参加します。

#### キーワード4：子ども

「本格的な展覧会を子どもにみせる」をテーマに、小中高生を対象とした教育プログラム「夏の教室」を開催するほか、展覧会コンセプトをひも解く子ども対象の印刷物を発行する予定です。

### ■ 創造都市横浜を代表するアートNPOとの連携

2004年以降、横浜市では創造都市政策に取り組み、創造界隈拠点の充実を図ってきました。ヨコハマトリエンナーレ2014の会期中、現代アート作品の展示のみならず、滞在制作や交流の場の提供、パフォーミングアーツの上演、障害者との協働による展示など個性のあるプログラムがまちなかで開催されます。



## 展覧会構成 / 参加作家

### 「忘却巡り」の旅に出る

私達はなにかたいせつな忘れものをしてはいないだろうか。気がつかないまま先に進んでしまったり、ホントは気がついているのに、知らないふりをして立ち去ったり。そういう「忘却」の領域に敏感に反応する芸術表現がある。表現者がいる。

ヨコハマトリエンナーレ2014は、人生のうっかりした忘れもの、人類の恒常的な忘れもの、現代という時代の特殊な忘れものを思い出すための、いわば「忘却巡り」の旅である。さまよい、とまどい、はっと感じとり、いろいろ想像し、そしてしばし立ち止まって考える。序章にはじまり、全部で11の挿話からなる、そんな心の漂流記。

いざ、「忘却の海」へ。

ヨコハマトリエンナーレ2014  
アーティストック・ディレクター 森村泰昌

#### [美術館前の序章]

アンモニュメンタルなモニュメント

#### [周辺会場]

第8話：漂流を招き入れる旅、漂流を映しこむ海

#### [グランドギャラリーの序章]

世界の中心にはなにがある？

#### [横浜美術館 / 新港ピア]

第9話：「華氏451度」を奏でる（仮題）

第10話：洪水のあと（仮題）

#### [横浜美術館]

第1話：沈黙とささやきに耳をかたむける

#### [新港ピア]

第11話：忘却の海に漂う

第2話：漂流する教室にであう

第3話：華氏451はいかに芸術にあらわれたか

第4話：たった独りで世界と格闘する重労働

第5話：非人称の漂流（仮題）

第6話：おそるべき子供たちの独り芝居

第7話：光にむかって消滅する

※ 本展タイトルの「華氏451の芸術」とは、1953年に刊行されたレイ・ブラッドベリ作のSF小説『華氏451度』に由来しています。焚書をテーマとした同書には、本を持つことも読むことも禁じられた社会に対するレジスタンス（抵抗）として、本をまるごと記憶する「本になる人々」が登場します。



※写真は参考作品または作品イメージです。

美術館前の序章 アンモニュメンタルなモニュメント 横浜美術館屋外

ウィム・デルボア / Wim DELVOYE

1965年、ウェルヴィク（ベルギー）生まれ。  
ゲント（ベルギー）在住。



《Flatbed Trailer》2007  
© Studio Wim Delvoye, Belgium  
Courtesy of MONA, Australia

カトリック信仰の厚い西フランドルで生まれ育ったデルボアは、様々な象徴を用いて装飾性の高い彫刻を手がける。バロックやゴシックといった古典的な芸術様式に倣う一方で、ブランドロゴや排泄物等、消費社会のシンボルをもモチーフにして、美と醜、性と生、伝統と現代を融合した挑発的な作品を発表し続けている。

ギムホンソック / Gimhongsok

1964年、ソウル（韓国）生まれ。広州（韓国）在住。



《LOVE》2012  
Photo: Lyndon DOUGLAS

現代社会や人々の意識に眼差しを向け、溢れるユーモアと鋭い批判性によって問いかける作品を発表。本トリエンナーレへの来場者を出迎えるように屋外展示される作品は、ロバート・インディアナの彫刻《LOVE》を引用し歪めることで、愛されるべきモニュメントであるパブリックアートの位置づけを独自のアイロニーで揺るがす。

グランドギャラリーの序章 世界の中心にはなにがある？ 横浜美術館

マイケル・ランディ / Michael LANDY

1963年、ロンドン（イギリス）生まれ。同在住。



《アート・ビン》2010  
サウス・ロンドン・ギャラリーでの展示風景

1988年自主企画展「Freeze」に参加、YBAs（ヤング・ブリティッシュ・アーティスト）の代表的一員として知られる。600㎡の大きさに及ぶ美術のためのゴミ箱《アート・ビン》ヨコトリ2014版がエントランスホールに登場し、創作活動の裏に秘められている失敗の歴史を視覚化する。



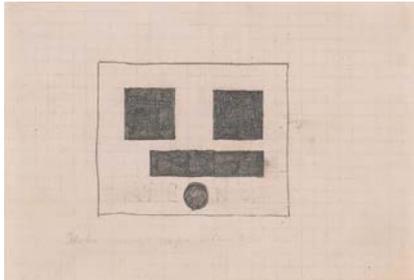
※写真は参考作品または作品イメージです。

## 第1話：沈黙とささやきに耳をかたむける

横浜美術館

## カジミール・マレーヴィチ / Kazimir MALEVICH

1879年、キエフ近郊（ロシア帝国/現ウクライナ）生まれ。  
1935年、レニングラード（ソ連/現ロシア）にて没。



《シュプレマティズムの素描（断片）》 ca. 1914-15  
東京国立近代美術館蔵

20世紀初頭に台頭したロシア・アヴァンギャルドの代表作家。1905年にモスクワに移り、前衛芸術に取り組み始める。1915年の「0.10 最後の未来派絵画展」で、白地に黒い正方形や円等の幾何学形態を描いた抽象絵画「シュプレマティズム絵画」を発表。事物の再現を拒み、純粹な芸術的感覚による表現を志した。

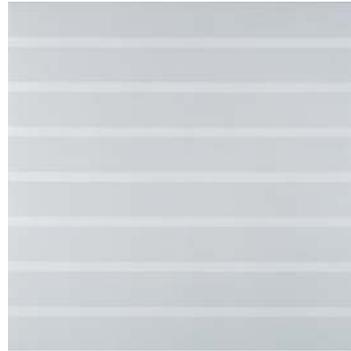
## ブリンキー・パレルモ / Blinky PALERMO

1943年、ライプツィヒ（ドイツ）生まれ。  
1977年、マレ（モルディブ）にて没。

ドイツを代表する抽象絵画の代表的作家。ヨーゼフ・ボイスの愛弟子としても知られる。1960年代半ばから、伝統的な矩形の絵画様式を脱して円や三角、十字形の支持体を用い、トーテムポールや建物の内壁等に描く。形と色彩を空間で構成し、人間の根源的な存在—生や絶望も含め—を自然との共生の中で捉えた。

## アグネス・マーティン / Agnes MARTIN

1912年、サスカチュワン州マックリン（カナダ）生まれ。  
2004年、ニューメキシコ州タオス（アメリカ）にて没。



《無題 #10》 1988  
国立国際美術館蔵  
© Agnes Martin/ARS, New York/JASPAR, Tokyo, 2014 E0990

アグネス・マーティンはカナダに生まれ、その後アメリカに移住して市民権を得て、同国を活動の拠点とした。その絵画作品の多くは、細い水平線とグリッドによって構成されている。自らを抽象表現主義作家と称したように、手描きよる繊細なラインの軌跡によって、静逸で精神性の高い作品を残した。

## ジョシュ・スミス / Josh SMITH

1976年、沖縄県生まれ。  
ニューヨーク州およびペンシルベニア州（アメリカ）在住。



《ペブトピンク》 2013  
Courtesy of the artist  
and Lühring Augustine,  
New York

絵画、版画、陶器、彫刻等多様なメディアにより、攻撃的かつさりげなく、遊び心に溢れる作品を制作。特に絵画では抽象・具象に拘らず描く行為の反復が見られる。本展では、昨年発表した単色絵画のシリーズから新作を出品。同一サイズのパネルに単色を塗る行為の繰り返しは、プロセスと見ることを重視する絵画研究と言える。



※写真は参考作品または作品イメージです。

### カルメロ・ベルメホ / Karmelo BERMEJO

1979年、マラガ（スペイン）生まれ。  
ビゴ（スペイン）在住。

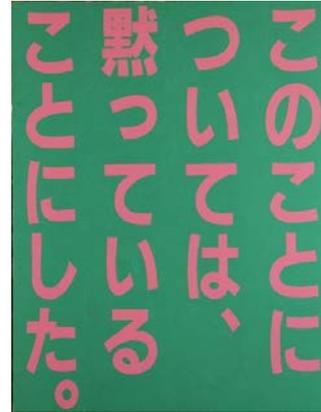


《ブランク》 2013

美術作品が成立するために必要なシステム（素材や技法、資金、制度など）に注目し、その構造自体に疑問を投げかけるようなプロジェクトを発表。本展では、カンヴァスの形状をしているが、実際には白い油絵具の塊だけで作られた《ブランク》により、支持体無しには存在し得ない絵画の本質と、ミニマルな表現の意味を追求する。

### 木村 浩 / KIMURA Hiroshi

1952年、尼崎市（兵庫県）生まれ。  
東京都在住。



《言葉》 1983  
(4枚組より)

1970年代後半より、写真、既成のフォントを忠実に再現して画面上に様々な言葉を描いた絵画や版画を発表。本展では、1983年に椿昇・中谷昭男・山本浩二との4人展で発表した4枚組の絵画《言葉》を紹介する。そこには、作家が創作過程で感じる心の流れや、外界／鑑賞者に向けた思いを示す、4つのフレーズが描かれている。

### ルネ・マグリット / René MAGRITTE

1898年、エノー州レシーヌ（ベルギー）生まれ。  
1967年、ブリュッセル（ベルギー）にて没。



《幸せな日》  
「イメージの忠実さ」より 1935  
横浜美術館蔵

© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0990

当初はキュビズムや未来派の影響を受けるが、1923年にデ・キリコの「形而上絵画」に強い衝撃を受け、シュルレアリスム運動に参加。絵画における言葉とイメージの関係を問い続け、その機知に富んだ絵画で広く知られる存在となる。本展では、横浜美術館が所蔵する1935年から1943年にかけて制作した写真が出品される。

### マルセル・ブロータース / Marcel BROODTHAERS

1924年、ブリュッセル（ベルギー）生まれ。  
1976年、ケルン（ドイツ）にて没。

詩作や映画制作の傍ら、美術作品を制作。ブロータースは1968年から1972年にかけて、「近代美術館 鷺の部」というプロジェクトを起ち上げた。本展では、その「美術館」において、作家が愛猫に対して絵画作品や美術をめぐる状況について意見を求める《猫のインタビュー》（1970）と題した、音声だけの作品を紹介する。



※写真は参考作品または作品イメージです。

## ヴィヤ・セルミンズ / Vija CELMINS

1938年、リガ（ラトビア）生まれ。  
ニューヨーク（アメリカ）在住。



《Hand Holding a Firing Gun》 1964  
ジョン&ジャック・クイン蔵  
Courtesy of McKee Gallery

1歳の時に一家で母国を離れ、ドイツの難民キャンプで暮らした後、1948年にアメリカに移住。1962年よりロサンゼルス、1981年以降はニューヨークで活動。海や星空を鉛筆や木炭で精緻に描き出した静謐なモノクローム画面で知られるが、本展出品作をはじめ60年代には戦闘機や銃、暴動など暴力的なイメージも手がけている。

## イザ・ゲンツケン / Isa GENZKEN

1948年、バート・オルデスロー（ドイツ）生まれ。  
ベルリン（ドイツ）在住。



《World Receiver》 2011  
© Isa Genzken  
Courtesy of Private Collection

ハンブルク芸術大学、デュッセルドルフ芸術アカデミーで学ぶ。在学中に床置き抽象彫刻「楕円」でデビュー。以後、ドイツを代表する彫刻家として一線で活躍を続ける。今回紹介するラジオを模したコンクリート彫刻は1982年に始めたシリーズの一点。工業製品の形態を賛美しつつ、建築的構造体として独自の存在感を放つ。

## フェリックス・ゴンザレス=トレス / Felix GONZALEZ-TORRES

1957年、ワイマロ（キューバ）生まれ。  
1996年、マイアミ（アメリカ）にて没。



《Untitled (Blue Mirror)》 1990  
© The Felix Gonzalez-Torres Foundation  
Courtesy of Andrea Rosen Gallery, New York

キューバ出身のアメリカ人アーティスト、ゴンザレス=トレスは、1988年、テキストや写真を印刷した紙を積み上げる作品を発表。ミニマル・アートの様相を呈しつつ、そこには、政治的な、もしくは個人的な、あるいはその双方の内容が含まれている。インタラクティブなその作品は、一葉ずつ人の手に渡り共有されることで初めて成立する。

## 村上友晴 / MURAKAMI Tomoharu

1938年、三春町（福島県）生まれ。  
東京都在住。



《無題》

東京芸術大学で日本画を学ぶが、絵具を重ね合わせながら積層させる独自の技法によって絵画制作を続けている。その作品は、深い精神性に支えられていると同時に、作品制作に費やされる数年の歳月が、思考する時間の経過をも視覚化しようとしている。



※写真は参考作品または作品イメージです。

## イアン・ウィルソン / Ian WILSON

1940年、ダーバン（南アフリカ）生まれ。  
ニューヨーク州（アメリカ）在住。

1960年、20歳の時に渡米。1968年5月、ニューヨーク市内のローレンス・ウィナーのスタジオで初めての《ディスカッション》を行う。個人あるいは複数の人々とウィルソンが「対話」という同作では、記録は一切とられない。その時、その場に居合わせた者の間にだけ存在する芸術として、今もその取組は続く。

## 第2話：漂流する教室にであう

横浜美術館

## 釜ヶ崎芸術大学 / Kama Gei

2012年、大阪市にて開校。



絵画の授業の様子

日雇い労働者の町としての歴史をもち、今も多くの元日雇いの高齢者が暮らす大阪市西成区の釜ヶ崎と呼ばれる地域を拠点に、あらゆる人を対象として哲学、書道、詩、芸術、天文学等の多彩なテーマによる講義やワークショップを行っている。本展では、成果発表展示のほか、オープンキャンパスとして出張講義や公演等を行う予定。



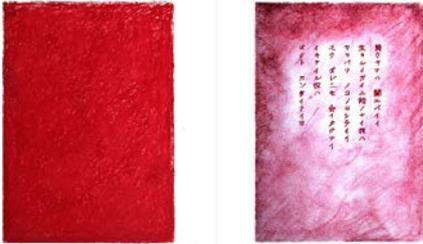
※写真は参考作品または作品イメージです。

第3話：華氏451 はいかに芸術にあらわれたか

横浜美術館

Moe Nai Ko To Ba

装幀：渡辺和雄  
製本：大家利夫  
収録：志賀理江子ほか



中屋幸吉「最後ノート」

レイ・ブラッドベリの小説『華氏451度』へのオマージュとして特別に作られる“世界でただ一冊の本”。スターリン政権下に口伝で残されたアンナ・アフマートヴァの詩など7本のテキスト、ナチスの爆撃を避けて空っぽになったエルミタージュ美術館を描いた素描、志賀理江子の写真等を収録。会場で自由に閲覧できる。

大谷芳久コレクション / OTANI Yoshihisa Collection

現代美術画廊「かんらん舎」のオーナー・大谷芳久が、1995年にドイツで見たジョージ・グロスの個展を機に、太平洋戦争期の日本の芸術家の表現活動を調べるべく収集した書籍コレクションの一部を展示。戦中に出版された詩文の多くは戦争や軍への讃歌であり、ベストセラーとなったが、戦後はその多くが消えることとなった。

松本竣介 / MATSUMOTO Shunsuke

1912年、東京府（現・東京都）生まれ。  
1948年、東京都にて没。



松本竣介が愛息・亮にあてた書状（1945年9月4日付）

日本の近代美術を代表する画家の一人。美術協会の新設に寄与するなど、戦後の画壇を背負って立つ人物として嘱望されながらも早逝した。本展では、終戦前後、疎開した妻と息子宛に綴った書簡を通じて、芸術家がどのような姿勢で世の中を見つめ、創造に臨んできたか、時代を経ても変わることのない精神のあり様を紹介する。

奈良原一高 / NARAHARA Ikko

1931年、大牟田市（福岡県）生まれ。  
東京都在住。



《沈黙の園》「王国」より 1958  
島根県立美術館蔵

早稲田大学大学院在学中、長崎県端島（通称・軍艦島）等の生活を写した「人間の土地」によりデビュー。東松照明らと写真家集団「VIVO」を結成するなど、日本写真史上に確固たる地位を築いた。本展では、「王国」シリーズより、トラピスト男子修道院を写した《沈黙の園》、女子刑務所に取材した《壁の中》を紹介する。



※写真は参考作品または作品イメージです。

### エリック・ボードレル / Eric BAUDELAIRE

1973年、ソルトレイクシティ（アメリカ）生まれ。  
パリ（フランス）在住。



《The Ugly One》 2013

事実の記録、被写体の言葉、<sup>フィクション</sup>物語が交差する《THE ANABASIS OF MAY AND FUSAKO SHIGENOBU, MASAO ADACHI AND 27 YEARS WITHOUT IMAGES》(2011)で注目される。本展でアジア初上映される《The Ugly One》では、日本人映画監督足立正生による脚本に敬意を払いながらも、映像はその叙情的な言葉から乖離していく。言葉と映像の関係性が浮き上がる作品。

### ドラ・ガルシア / Dora GARCÍA

1965年、バリャドリッド（スペイン）生まれ。  
バルセロナ（スペイン）在住。



《Fahrenheit 451 (1957)》 2002  
© Dora García  
Courtesy of FRAC Bourgogne

サラマンカ大学とアムステルダム王立美術館で美術を学ぶ。映像、インスタレーション、パフォーマンス作品で、鑑賞者・作品・空間の関係を探る。小説『華氏451度』を鏡文字で“複製”した本展出品作でも見られるように、テキスト（文字）も三者をつなぐ重要な要素。2011年ヴェネチア・ビエンナーレのスペイン代表作家。

### マイケル・ラコウィッツ / Michael RAKOWITZ

1973年、ニューヨーク州グレートネック（アメリカ）生まれ。  
シカゴ（アメリカ）在住。



《どんな塵が立ち上がるだろう?》 2012  
Photo: Roman MÁRZ  
Courtesy of the artist and Lombard Freid Gallery, New York

社会的弱者の状況や戦争による文化の破壊に目を向けるプロジェクトを数多く行う。《どんな塵が立ち上がるだろう?》では、タリバンが石仏を破壊したバーミヤンの石を用い、1941年英軍によって爆撃されたドイツ・カッセルの図書館の本の複製を作った。喪失の記憶を共有する人々とともに、美術表現を通じて再生を試みる。

### エドワード&ナンシー・キーンホルツ / Edward & Nancy Reddin KIENHOLZ

エドワード・キーンホルツ  
1927年、ワシントン州フェアフィールド（アメリカ）生まれ。  
1994年、アイダホ州ホープ（アメリカ）にて没。

ナンシー・レディン・キーンホルツ  
1943年、ロサンゼルス（アメリカ）生まれ。  
ホープ、ヒューストン（アメリカ）およびベルリン（ドイツ）在住。



《Billionaire》 1977  
© Kienholz  
Courtesy of L.A. Louver, Venice, CA

エドワード・キーンホルツは、精神病院の職員や中古車販売員等多様な職に就いた後、1952年にロサンゼルスに移住。画廊経営を経て創作を始める。現代社会のタブーに触れつつ問題提起をする作品は、センセーショナルながら深い洞察に裏付けられたもの。1972年以降は、ナンシー・レディンとの共同制作で作品を発表した。



※写真は参考作品または作品イメージです。

第4話：たった一人で世界と格闘する重労働

横浜美術館

福岡道雄 / FUKUOKA Michio

1936年、堺市（大阪府）生まれ。  
同在住。



《飛ばねばよかった》1966  
Photo: FUKUNAGA Kazuo

空気（ため息）をモチーフとした彫刻作品「ピンクバルーン」シリーズや、風景彫刻、「何もすることがない」「僕達は本当に怯えなくてもいいのでしょうか」等の言葉を刻み込んだ平面作品で知られる。本展では、1966年に発表した彫刻作品《飛ばねばよかった》他、平面作品5点を出品。

中平卓馬 / NAKAHIRA Takuma

1938年、東京都生まれ。  
横浜市（神奈川県）在住。



《無題》「原点復帰—横浜」より  
2001, 2002 頃 (2003 Print)  
横浜美術館蔵

編集、評論を中心に活動していたが、1965年以降写真家として制作を開始し、高梨豊、岡田隆彦、多木浩二らと共に、写真同人誌『Provoke』創刊に参画した。1977年、事故で記憶の機能に障害を持つが、それを乗り越えながら、写真の現前性を徹底させる写真制作を展開している。

アリギエロ・ボエッティ /  
Alighiero BOETTI

1940年、トリノ（イタリア）生まれ。  
1994年、ローマ（イタリア）にて没。



《ALIGHIERO BOETTI》1975  
豊田市美術館蔵  
© SIAE, Roma & JASPAR, Tokyo, 2014 E0990

1960年代にイタリアで生まれた先鋭的な美術運動「アルテ・ポーヴェラ」に参画。伝統的な美術素材を捨て、工業化社会からこぼれ落ちる廃棄物等を素材として取り上げた。また、国家と地域等政治的課題に関心を示し、国旗によって構成された世界地図「マップ」シリーズ（1971-1979）で実践した。

張恩利（ザン・エンリ） / ZHANG Enli

1965年、吉林省（中国）生まれ。  
上海（中国）在住。



《口袋》2014  
Courtesy of the Artist/ShanghART Gallery

身の回りにある日常的な物、特に忘れられがちな平凡なオブジェを丁寧かつ静謐な筆致で描く。具象絵画でありながら対象物を忠実に模写するのではなく、記憶をたどって描くという独特の手法をとる。本展では、新作3点を出品、最近のモチーフである紐、使い古しの袋や、マットレス、箱等を描いている。



※写真は参考作品または作品イメージです。

### 毛利悠子 / MOHRI Yuko

1980年、藤沢市（神奈川県）生まれ。  
東京都在住。



《onibi》2013

古い傘や楽器などの古道具と機械部品を組み合わせて、ささやかな音やユーモラスな動きを伴うインスタレーションを発表。本展では、1950年代にアメリカから日本に渡り、2012年に死去した音楽家が遺した自作楽器をモチーフに、時とともに奏でる音に変化する自動演奏装置として再生させる。

### サイモン・スターリング / Simon STARLING

1967年、エプソム（イギリス）生まれ。  
コペンハーゲン（デンマーク）在住。



《仮面劇のためのプロジェクト (ヒロシマ)》2010  
Mask maker: MIICHI Yasuo

歴史的なエピソードの中で忘れられた人々の繋がり、異文化の邂逅や衝突から物事の変化に光を当てる。今回の新作は、アイルランドの詩人 W.B.イェーツが日本の能に触発されて書いた『鷹の井戸』の1916年初演当時の写真から、面や衣装を職人たちと再現し、想像力と翻訳、時に誤解も含めた東西文化の交錯を浮かび上がらせる。

### 吉村益信 / YOSHIMURA Masunobu

1932年、大分市生まれ。  
2011年、秦野市（神奈川県）にて没。



《反物質；ライト・オン・メビウス》1968  
大分県立芸術会館蔵

1960年に「ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ」を結成。60年代後半には金属製のメビウスの輪に電球を走らせた《反物質；ライト・オン・メビウス》等、テクノロジーに関心を寄せた作品が評価され大阪万博へ参加。本展では、万博のせんい館のために制作した《大ガラス》や、その直後に制作した《豚；pig' Lib；》等を展示予定。

### 和田昌宏 / WADA Masahiro

1977年、東京都生まれ。  
同在住。



《「イチユマデモ キミウォ アイ ステル」主婦のためのスタイリッシュなハエ》2012

日常で出会う一見相互関係が見いだせないような出来事を拾い上げ、そこに潜む事実を丹念に洗い出し、作品化している。本展では、自身の家族をめぐるいくつかのエピソードを映像とオブジェでつなぐ新作のインスタレーションを発表する。



※写真は参考作品または作品イメージです。

第5話：非人称の漂流（仮題）

横浜美術館



《法と星座・Turn Coat / Turn Court》  
（写真は概念模型） 2014  
Photo: satoru takahashi

私たちは話すことを視ず、視ることについて話さない。  
《法と星座・Turn Coat / Turn Court》は、林剛+中塚裕子が1983年から1985年に「京都アンデパンダン展」で発表した「Court」シリーズにおける「視ること・話すこと」の位相を変え「身体・領土・健康・安全」へと再配置する試みである。

第6話：おそろべき子供たちの独り芝居

横浜美術館

ジョゼフ・コーネル／  
Joseph CORNELL

1903年、ニューヨーク州ナイアック（アメリカ）生まれ。  
1972年、ニューヨーク（アメリカ）にて没。

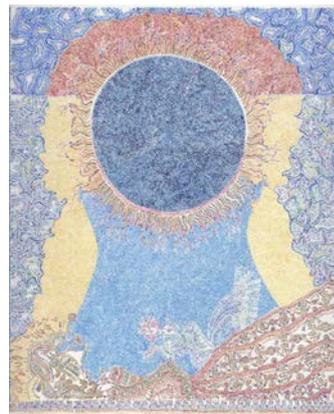


《カシオペア #1》 ca.1960  
国立国際美術館蔵

© The Joseph and Robert Cornell Memorial Foundation / VAGA, N.Y. & JASPAR, Tokyo, 2014 E0990

1930年代初頭より、蒐集した小物によるコラージュを開始。それをアッサンブラージュの手法に発展させた「箱」の連作は、のちにコーネル芸術の代名詞となる。同時代のアートシーンから距離を置き、静謐さを湛えた詩的な作風を生涯にわたり堅持した。本展では、箱作品に加え、16mmフィルムによる短編映画を出品する。

坂上チユキ／SAKAGAMI Chiyuki



《砂漠の王女は睡るが如く (To H)》

主に水彩やインクを用いて、微生物を思わせる有機的な形象が連なる画面を構成する。時には肉眼では捉えられない程の緻密で微細な描写で、さまざまな物語を封印する。ここ数年「博物誌」、「鳥の写本」と題するシリーズを連続して発表。古代の生物や鳥類、文学や伝承を取り入れながら神話的世界を展開する。



※写真は参考作品または作品イメージです。

### 松井智恵 / MATSUI Chie

1960年、大阪市生まれ。  
同在住。



《一枚さん》より  
2013

自身の身体を通して自伝的・触覚的な感覚を喚起するパフォーマンスや映像作品、インスタレーションを発表。2回目の参加となる本展では、2011年より毎日1枚ずつ様々な画材で制作され、ネット上で《一枚さん》として更新される絵を発表。会期中、作品が増え続けるワーク・イン・プログレス型の展示となる。

### アリーナ・シャポツニコフ / Alina SZAPOCZNIKOW

1926年、カリシュ（ポーランド）生まれ。  
1973年、オート＝サヴォワ県（フランス）にて没。



《Cendrier de Célibataire I [The Bachelor's Ashtray]》 1972  
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0990  
Courtesy of The Estate of Alina Szapocznikow / Piotr Stanislawski /  
Galerie Loevenbruck, Paris  
Photo: Fabrice Gousset

ユダヤ人家庭に生まれ強制収容所に送られるも、医師の母を手伝い虐殺を免れる。戦後ブラハで彫刻を学んだ後、パリの美術学校に通うが、ポーランド政府に召喚されて帰国。母国で作品が注目され始め、1963年以降はパリを拠点に活動した。長年病に苦しみつつ早逝するまで、自身の肉体をモチーフに作品を生み出し続けた。

### ピエール・モリエ / Pierre MOLINIER

1900年、アジャン（フランス）生まれ。  
1976年、ボルドー（フランス）にて没。



《分身》『シャーマンとその創造物たち』No. 27より 1962-67  
成山画廊蔵  
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0990

アンデパンダン展に出品を重ねるも、エロティックな表現のために検閲され、長らく無名時代を送る。1955年、アンドレ・ブルトンに見いだされて初個展を開催、シュルレアリストとの交流が始まる。肉体の各部位を交換、自由に組み合わせたフォト・モンタージュで独自の世界を切り開いたが、1976年、拳銃自殺を遂げた。

### アンディ・ウォーホル / Andy WARHOL

1928年、ピッツバーグ（アメリカ）生まれ。  
1987年、ニューヨーク（アメリカ）にて没。



《絶頂絵画》ca. 1978  
Collection of the Andy Warhol Museum, Pittsburgh  
© 2013 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc.  
/ARS, N.Y. & JASPAR, Tokyo E0990

1976年の「鎌と槌」シリーズは、共産党の象徴である「鎌と槌」が持つ力強さを、向きを変えたり、ドル札やバイブレーターと組み合わせたりして解体する。一方《絶頂絵画》は尿を用いた「酸化絵画」シリーズとほぼ同時期に制作された抽象絵画。共にウォーホルが1970年代に制作した、実験的で独り遊びともとれる小品。



※写真は参考作品または作品イメージです。

グレゴール・シュナイダー／  
Gregor SCHNEIDER

1969年、ライト（ドイツ）生まれ。  
同在住。



《ur 19, LIEBESLAUBE》 1995  
© Gregor Schneider /  
VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR,  
Tokyo, 2014 E0990

16歳の時に地元のギャラリーで初個展を開催。同年より、壁の前に壁を建て、部屋の中に部屋を設けて自宅を改造する作品《家ur》に着手。同作はその後現在に至るまで（そしておそらくは生涯）続けられる作家の代表作である。本展では、新作となる日本初の本格的なインスタレーションを発表予定。

第7話：光にむかって消滅する

横浜美術館

三嶋安住＋三嶋りつ恵／  
MISHIMA Anju + MISHIMA Ritsue

三嶋安住 1989年、ヴェネチア（イタリア）生まれ。京都市在住。  
三嶋りつ恵 1962年、京都府生まれ。京都市およびヴェネチア（イタリア）在住。



三嶋安住 《青い水晶》 2014  
Photo: ICHIKAWA Yasushi

本展最年少出品作家で、独特の世界観による平面作品を制作する三嶋安住と、ヴェネチアを拠点に、ムラーノの伝統技術を使い、ガラスの可能性を現代に形づくる三嶋りつ恵の、母と息子のユニットによる展示。安住の絵画と版画、りつ恵の透明ガラスにより人々が集うカフェを光に満ちた異次元の空間へと変貌させる。



※写真は参考作品または作品イメージです。

## 第8話：漂流を招き入れる旅、漂流を映しこむ海

周辺会場

## 高山 明 / TAKAYAMA Akira

1969年、浦和市（埼玉県）生まれ。  
さいたま市（埼玉県）在住。



《東京ヘテロトピア》 2013  
フェスティバルトーキョー 13 / Photo: HASUNUMA Masahiro

ドイツでの演劇活動ののち帰国。2002年に Port B（ポルト・ビー）を結成。演劇の枠組みを超え、都市の中で《東京ヘテロトピア》（2013）などの社会実験的な作品を発表。本展では、《横浜コミュニティ》と題して、横浜のアジア・コミュニティをリサーチし、アジアの人々とともに「日本／語」を問い直す展示とツアーを実施予定。

## トヨダ ヒトシ / TOYODA Hitoshi

1963年、ニューヨーク（アメリカ）生まれ。  
湯河原町（神奈川県）在住。



《白い月》より 2010

1991年、ニューヨークの国際写真センターが主催する社会人向けの写真講座でナン・ゴールディンの指導を得た。1993年よりニューヨークを拠点に活動を開始。2013年に日本に拠点を移して以降も写真を一切プリントせず、アナログの映写機を自ら操作し、モノとしての痕跡を残さないスライドショーによる映像日記を発表しつづけている。

## 第9話：「華氏 451 度」を奏でる（仮題）

横浜美術館

## 札幌国際芸術祭 2014 / Sapporo International Art Festival 2014

「札幌国際芸術祭 2014」に関連するイベントを開催予定。

「札幌国際芸術祭 2014」は、札幌市で初めて開催される創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会主催による国際芸術祭。ゲストディレクターに坂本龍一氏を迎え「都市と自然」というテーマのもとに、北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館などで展覧会を開催するほか市内各所でプロジェクト等を展開。

札幌国際芸術祭 2014 は 7 月 19 日（土）から 9 月 28 日（日）まで。

詳細は <http://www.sapporo-internationalartfestival.jp/>

## 第10話：洪水のあと（仮題）

新港ピア

## 福岡アジア美術トリエンナーレ / Fukuoka Asian Art Triennale

「福岡アジア美術トリエンナーレ（FT）」は、アジアの近現代を専門とする福岡アジア美術館が 1999 年の開館記念展以来開催してきたアジア作家限定の国際展。ヨコハマトリエンナーレ 2014 のコンセプトである「忘却の海」に合わせて、FT の福岡アジア美術館に収蔵された過去の参加作家（キム・ソンヨン、チェン・ジエレン、ヤスミン・コビール、ハア・ユンチャン、ディン・キュー・レ）の作品、第 5 回展参加のキリ・ダレナの作品、および FT 関連資料を展示する予定。

「第 5 回福岡アジア美術トリエンナーレ 2014 未来世界のパノラマ〜ほころぶ時代のなかへ」は、9 月 6 日（土）から 11 月 30 日（日）まで。

詳細は <http://www.fukuokatriennale.ajibi.jp/>



※写真は参考作品または作品イメージです。

第 11 話：忘却の海に漂う

新港ピア

やなぎみわ / YANAGI Miwa

1967年、神戸市（兵庫県）生まれ。  
京都市在住。



台湾の移動舞台トレーラー（写真は32分の1の模型）2014

CGや特殊メイクを駆使した写真によりジェンダー、若さと老いといった女性を取り巻く諸問題への洞察を試みる。2001年の横浜トリエンナーレ、2009年のヴェネチア・ビエンナーレ（日本館代表）に参加。2010年より演劇にも取り組み、本展では新作演劇『日輪の翼』（原作：中上健次）のための移動舞台車を発表する。

土田ヒロミ / TSUCHIDA Hiromi

1939年、南条郡堺村（現・福井県南越前町）生まれ。  
東京都在住。



「ヒロシマ 1945-1979」より 1976

1960年代後半より写真家として活動。本展では、ライフワークというべき「ヒロシマ」をめぐる3つのシリーズ（『原爆の子』のその後を追った「ヒロシマ 1945-1979 / 2005」、広島市内を40年にわたり定点観測した「ヒロシマ・モニュメント」、広島平和記念資料館の収蔵資料を写した「ヒロシマ・コレクション」）を紹介する。

殿敷 侃 / TONOSHIKI Tadashi

1942年、広島生まれ。  
1992年、益田市（島根県）にて没。



《山口-日本海-二位ノ浜、お好み焼 [重量約2トン]》1987  
Courtesy of THE YOMIURI SHIMBUN

3歳のときに広島で二次被爆。高校卒業後、国鉄（現JR）に就職、1962年に長期入院した際、病院の絵画サークルで美術と出会う。その後、山口県長門市に移転し、以降活動の拠点とする。絵画、版画作品の制作を経て、屋内外でのインスタレーションに取り組み、より社会性の高い作品を展開した。

メルヴィン・モティ / Melvin MOTI

1977年、ロッテルダム（オランダ）生まれ。  
同在住。



「包囲攻撃下にあったテント・ホール」  
エルミターージュ美術館資料室蔵  
© 2014 The State Hermitage Museum, St. Petersburg

ティルブルフの視覚造形アカデミー、アムステルダムの美術学校デ・アテリエーズで学ぶ。本展出品の《ノー・ショー》に代表されるように、歴史に埋没した物語、隠匿された事実の掘り起しを創作の基盤とし、映像をはじめ、素描、オブジェ、本等多様な形で作品化する。今春は森美術館「MAMプロジェクト」にも参加予定。



※写真は参考作品または作品イメージです。

### バス・ヤン・アデル / Bas Jan ADER

1942年、ウインジョッテン (オランダ) 生まれ。

1975年、大西洋にて行方不明。



《Broken fall (organic), Amsterdamse Bos, Holland》 1971  
Courtesy of Mary Sue Ader-Andersen,  
The Bas Jan Ader Estate and Patrick Painter Editions

アムステルダムのリートフェルト・アカデミーを経て、米国移住後、オーティス美術デザイン大学とクレアモント大学院を修了。1970年から「落下」を主題としたパフォーマンス映像を発表 (本展では3点を展示)。コンセプチュアル・アートの旗手となるが、1975年に東海岸から小型ボートで出帆し、そのまま消息を絶った。

### アナ・メンディエータ / Ana MENDIETA

1948年、ハバナ (キューバ) 生まれ。

1985年、ニューヨーク (アメリカ) にて没。



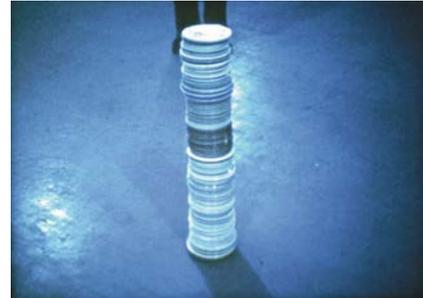
《Ocean Bird Washup》 1974  
© The Estate of Ana Mendieta Collection  
Courtesy of Galerie Lelong, New York

12歳で米国に移住。アイオワ大学では絵画を学ぶが、在学中からパフォーマンスアートに強い関心を抱く。パフォーマンス、映像、写真、版画等の分野にまたがって、自らの身体と大地・自然との関係を問う制作を展開した。国際的な名声を獲得しつつあった矢先、自宅アパートで転落死。本展では初期の映像作品3点が出品される。

### ジャック・ゴールドスタイン / Jack GOLDSTEIN

1954年、モントリオール (カナダ) 生まれ。

2003年、サン・バーナディーノ (アメリカ) にて没。



《Some Plates》 1972  
Courtesy of Galerie Buchholz, Berlin/Cologne and the Estate of Jack Goldstein

カリフォルニア芸術大学に学ぶ。初期のミニマル彫刻を経て、映画やコマーシャルの手法を援用した映像作品へと展開。サブカルチャーへの批評を旨とした創作活動で、70年代コンセプチュアリズムの一翼を担った。パフォーマンスや音響作品など多分野を手がけたが、80年代以降は宇宙や自然現象を主題とする絵画にシフトした。

### アクラム・ザタリ / Akram ZAATARI

1966年、シドン (レバノン) 生まれ。

ベイルート (レバノン) 在住。



《彼女に/を + 彼に/を》  
ハウス・オブ・アーティスト (ノルウェー) での展示風景 2011  
Photo: Vegard KLEVEN

アラブ・イメージ財団の共同設立者として中東、北アフリカ、アラブ系ディアスポラを巡る写真、映像のアーカイブを組織するとともに、アラブ文化圏の文脈を意識しながら写真・映像作品を発表している。本展では、代表作の一つ《彼女に/を + 彼に/を》を出品。



※写真は参考作品または作品イメージです。

### イライアス・ハンセン / Elias HANSEN

1979年、ワシントン州タコマ（アメリカ）生まれ。  
ニューヨーク州アムステルダム（アメリカ）在住。



《It ain't what it seem》 2012  
Photo: Jeffrey STURGES  
Courtesy of the artist and Maccarone, NY

ガラス工芸の盛んなアメリカ北西部のタコマに生まれ、ロサンゼルスで吹きガラスの技術を習得した後、作家活動を開始。フラスコなど実験器具のような手製のガラスの器に、木や金属、ビニールなど異素材の既製品を組み合わせたオブジェは、繊細かつ素朴、理知的だが即興的でもある。本展では、新作を発表予定。

### ヤン・ヴォー / Danh VO

1975年、バーリア（ベトナム）生まれ。  
メキシコ・シティ（メキシコ）在住。



「我ら人民は（部分）」 2011-13  
Photo: Danh VO  
Courtesy of the artist and Galerie Chantal Crousel, Paris

1979年、一家でベトナムを離れ、デンマークに移住。コペンハーゲンの王立美術学校とフランクフルトのシュテーデル美術学校で学ぶ。自身の生い立ち＝個人史と世界の史実を併置させたコンセプチュアルな作品で知られる。代表作「我ら人民は（部分）」は、自由の女神像を原寸大で型取り、各パーツをそのまま見せるシリーズ作品である。

### 笠原恵実子 / KASAHARA Emiko

1963年、東京都生まれ。  
藤沢市（神奈川県）在住。



《オフアリング - マリーナ》 2005

女性と社会との関係性を問う初期の彫刻作品から、近年は性別や宗教など社会を規定する制度について考察するインスタレーションを制作。本展では、10年間に渡り世界各地の教会の献金箱を撮影した写真と、そのフィールドリサーチを元に自ら創り出した彫刻作品で構成されるインスタレーション「オフアリング」を展示。

### 葛西絵里香 / KASAI Erika

1982年、横浜市（神奈川県）生まれ。  
同在住。



ヨコハマトリエンナーレ 2014 のために制作中の新作版画

女子美術大学短期大学部専攻科を修了。「彫る」というシンプルな行為から生まれる表現の可能性を追求し、微細な線や網点を彫り込んだ版やハンコによる作品を制作している。今回は、メインビジュアルイメージ（デザイン：有山達也）の版画制作を担当。本展では、リノリウムを用いた版と版画からなる新作を発表予定。



※写真は参考作品または作品イメージです。

### キム・ヨンイク / KIM Yongik

1947年、ソウル（韓国）生まれ。  
楊平郡（韓国）在住。



《Despair Completed》  
1995 - 2005  
Image © Artist, Art Space Pool  
Artwork © Artist  
Photo: bara studio

単色絵画のような表情を持つ作品は、ドットをはじめ幾何学的な形象を画面に描きながら、描いては消去して手を入れ続け、さらに自身のつぶやきともとれるテキストを書き込んだ、完結しない身体的表現の集約といえる。韓国民衆美術のスピリットとミニマルな美学を備え、日常と美術表現を融合する孤高の作家。

### 松澤 宥 / MATSUZAWA Yutaka

1922年、下諏訪町（長野県）生まれ。  
2006年、諏訪市（長野県）にて没。



目黒区美術館でのパフォーマンス  
(1995年4月18日)  
© SHIGEO ANZAI

1964年6月1日の深夜、就寝中に「オブジェを消せ」という啓示を受け、6月4日に美術を言葉だけで表現する観念美術の制作を開始する。宇宙的視野と人間の根源的な有り様という気宇壮大なビジョンを持ち続けた。下諏訪の自宅にある「 $\psi$ の部屋」に布置されている作品を中心に、その世界観を示す展示が予定されている。

### 大竹伸朗 / OHTAKE Shinro

1955年、東京都生まれ。  
宇和島（愛媛県）在住。



構想イメージ  
© Shinro Ohtake  
Courtesy of Take Ninagawa, Tokyo

武蔵野美術大学入学後、一週間で休学するものの、北海道やイギリスでの制作を経て復学。1982年には初個展を開催。以降、絵画、映像、音楽など幅広い分野での表現を自在に組み合わせた作品を手がける。2012年のドクメンタ13や昨年のヴェネチア・ビエンナーレにも参加し、精力的な活動を続ける。本展では新港ピアで新作を発表する。

### 日埜直彦 / HINO Naohiko

1971年、茨城県生まれ。  
東京都在住。



日埜建築設計事務所を主宰し、現代美術ギャラリーの設計、展覧会の企画・監修など、都市や建築に関わる幅広い活動を展開。横浜トリエンナーレには第3回展と第4回展に参画し、日本郵船海岸通倉庫、赤レンガ倉庫、横浜美術館の空間構成を行なった。本展でも会場の空間構成の他、新港ピア内「Café Oblivion」を設計。



## 参加作家一覧 アルファベット順

※参加作家には、個人、団体名、プロジェクト名等を含みます。

	作家名 (和)	作家名 (英)	出生国	出生年	没年	章・話	掲載頁
A	バス・ヤン・アデル	Bas Jan ADER	オランダ	1942	1975	第11話	21
B	エリック・ボードレー	Eric BAUDELAIRE	アメリカ	1973	--	第3話	13
	カルメロ・ベルメホ	Karmelo BERMEJO	スペイン	1979	--	第1話	9
	アリギエロ・ボエッティ	Alighiero BOETTI	イタリア	1940	1994	第4話	14
	マルセル・ブロータース	Marcel BROODTHAERS	ベルギー	1924	1976	第1話	9
C	ヴィヤ・セルミンズ	Vija CELMINS	ラトビア	1938	--	第1話	10
	ジョゼフ・コーネル	Joseph CORNELL	アメリカ	1903	1972	第6話	16
D	ウィム・デルボア	Wim DELVOYE	ベルギー	1965	--	序章	7
F	福岡アジア美術トリエンナーレ	Fukuoka Asian Art Triennale	--	--	--	第10話	19
	福岡道雄	FUKUOKA Michio	日本	1936	--	第4話	14
G	ドラ・ガルシア	Dora GARCÍA	スペイン	1965	--	第3話	13
	イザ・ゲンツケン	Isa GENZKEN	ドイツ	1948	--	第1話	10
	ギムホンソク	Gimhongsok	韓国	1964	--	序章	7
	ジャック・ゴールドスタイン	Jack GOLDSTEIN	カナダ	1954	2003	第11話	21
	フェリックス・ゴンザレス=トレス	Felix GONZALEZ-TORRES	キューバ	1957	1996	第1話	10
H	イライアス・ハンセン	Elias HANSEN	アメリカ	1979	--	第11話	22
	日笠直彦	HINO Naohiko	日本	1971	--	第11話	23
K	釜ヶ崎芸術大学	Kama Gei	--	2012	--	第2話	11
	笠原恵美子	KASAHARA Emiko	日本	1963	--	第11話	22
	葛西絵里香	KASAI Erika	日本	1982	--	第11話	22
	エドワード&ナンシー・キーンホルツ	Edward & Nancy Reddin KIENHOLZ	アメリカ	1927/1943	1994/--	第3話	13
	キム・ヨンイク	KIM Yongik	韓国	1947	--	第11話	23
	木村浩	KIMURA Hiroshi	日本	1952	--	第1話	9
L	マイケル・ランディ	Michael LANDY	イギリス	1963	--	序章	7
M	ルネ・マグリット	René MAGRITTE	ベルギー	1898	1967	第1話	9
	カジミール・マレーヴィチ	Kazimir MALEVICH	ロシア帝国 (現ウクライナ)	1879	1935	第1話	8
	アグネス・マーティン	Agnes MARTIN	カナダ	1912	2004	第1話	8
	松井智恵	MATSUI Chie	日本	1960	--	第6話	17
	松本竣介	MATSUMOTO Shunsuke	日本	1912	1948	第3話	12
	松澤宥	MATSUZAWA Yutaka	日本	1922	2006	第11話	23
	アナ・メンディエータ	Ana MENDIETA	キューバ	1948	1985	第11話	21
	三嶋安住+三嶋りつ恵	MISHIMA Anju + MISHIMA Ritsue	イタリア/日本	1989/1962	--	第7話	18
	モエナイコトバ	Moe Nai Ko To Ba	--	--	--	第3話	12
	毛利悠子	MOHRI Yuko	日本	1980	--	第4話	15
	ピエール・モリニエ	Pierre MOLINIER	フランス	1900	1976	第6話	17
	メルヴィン・モティ	Melvin MOTI	オランダ	1977	--	第11話	20
	村上友晴	MURAKAMI Tomoharu	日本	1938	--	第1話	10
N	中平卓馬	NAKAHIRA Takuma	日本	1938	--	第4話	14
	奈良原一高	NARAHARA Ikko	日本	1931	--	第3話	12
O	大竹伸朗	OHTAKE Shinro	日本	1955	--	第11話	23
	大谷芳久コレクション	OTANI Yoshihisa Collection	--	--	--	第3話	12
P	ブリンクー・パレルモ	Blinky PALERMO	ドイツ	1943	1977	第1話	8
R	マイケル・ラコウイツ	Michael RAKOWITZ	アメリカ	1973	--	第3話	13
S	坂上チユキ	SAKAGAMI Chiyuki	--	--	--	第6話	16
	札幌国際芸術祭 2014	Sapporo International Art Festival 2014	--	--	--	第9話	19
	グレゴール・シュナイダー	Gregor SCHNEIDER	ドイツ	1969	--	第6話	18
	ジョシュ・スミス	Josh SMITH	日本	1976	--	第1話	8
	サイモン・スターリング	Simon STARLING	イギリス	1967	--	第4話	15
	アリーナ・シャポツニコフ	Alina SZAPOCZNIKOW	ポーランド	1926	1973	第6話	17
T	高山明	TAKAYAMA Akira	日本	1969	--	第8話	19
	殿敷侃	TONOSHIKI Tadashi	日本	1942	1992	第11話	20
	トヨダヒトシ	TOYODA Hitoshi	アメリカ	1963	--	第8話	19
	土田ヒロミ	TSUCHIDA Hiromi	日本	1939	--	第11話	20
V	ヤン・ウォー	Danh VO	ベトナム	1975	--	第11話	22
W	和田昌宏	WADA Masahiro	日本	1977	--	第4話	15
	アンディ・ウォーホル	Andy WARHOL	アメリカ	1928	1987	第6話	17
	イアン・ウィルソン	Ian WILSON	南アフリカ	1940	--	第1話	11
Y	やなぎみわ	YANAGI Miwa	日本	1967	--	第11話	20
	吉村益信	YOSHIMURA Masunobu	日本	1932	2011	第4話	15
Z	アクラム・ザタリ	Akram ZAATARI	レバノン	1966	--	第11話	21
	張恩利 (ザン・エンリ)	ZHANG Enli	中国	1965	--	第4話	14
--	--	--	--	--	--	第5話	16

## 映像プログラム / Film Screening Program

本展覧会に付随する映像作品の特集上映会。タイトルの由来となった『華氏451』(1966年、フランソワ・トリュフォー監督)の特別上映のほか、横浜美術館の16mmフィルムアーカイヴ、本展参加作家の映像作品など約30タイトルを、会期中に横浜美術館レクチャーホールで上映。



## まちにひろがるトリエンナーレ

横浜トリエンナーレは「まちにひろがるトリエンナーレ」を掲げ、アーティスト、デザイナー、建築家などが集積する横浜臨海部の創造界隈拠点をはじめ、市内でクリエイティブな活動に関わる団体や個人とも連携し、アートを通じて横浜のまちづくりに寄与することを目指しています。

### ① 創造界隈拠点連携プログラム (P26 参照)

横浜臨海部の歴史的建造物や倉庫、空きオフィスなどを創造的活動の場に転用し、アーティストやクリエイターの活動を発信する5拠点 — BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区、象の鼻テラス、急な坂スタジオ、ヨコハマ創造都市センター (YCC) — が同時期に開催するプログラムを「創造界隈拠点連携プログラム」として位置づけます。有料会場となる BankART Studio NYK と初黄・日ノ出町地区とのチケット連携をはじめ、会場間無料バスの運行や広報を通じて連携し、ヨコハマトリエンナーレ 2014 とともに創造都市横浜らしい多様なプログラムを提供します。

### ② 応援企画

主に横浜を拠点に活動する市民や企業、商店街など地域の皆様からさまざまな企画を公募し、広報連携をするプログラムです。決定した企画はヨコハマトリエンナーレ 2014 公式ウェブサイト ([www.yokohamatriennale.jp](http://www.yokohamatriennale.jp)) に掲載されます。

#### 応援プログラム

ヨコハマトリエンナーレ2014の会期中に開催される文化芸術拠点、NPO 団体等が主催するイベント・企画を募集し、広報連携を図ります。

#### 応援グッズ

ヨコハマトリエンナーレ2014の応援ロゴを使用したオリジナルグッズを募集し、採用されたグッズは公式ショップなどで販売・プロモーションされます。

※「応援プログラム」と「応援グッズ」の応募はヨコハマトリエンナーレ 2014 公式ウェブサイト ([www.yokohamatriennale.jp](http://www.yokohamatriennale.jp)) まで。

## 東アジア文化都市2014 横浜特別事業としての開催



横浜市は、中国・泉州市、韓国・光州広域市とともに、2014年からスタートした「東アジア文化都市」の開催都市となりました。「ヨコハマトリエンナーレ 2014」を中心的な事業として、現代アートや伝統文化などの文化芸術イベントをとおして、東アジア域内の相互理解を深め、横浜の魅力をアピールします。

ヨコハマトリエンナーレ2014は、「東アジア文化都市2014 横浜特別事業」として位置づけられています。



## 創造界隈拠点連携プログラム

バンカースタジオ エヌ・ワイ・ケー

## ■BankART Studio NYK

BankART Life IV 「東アジアの夢〜続・朝鮮通信使の新たなる展開とランドマークプロジェクトV」

2010年より推進している文化交流プロジェクト「続・朝鮮通信使」を日中韓及び東アジアに広げてツアー、レジデンス、展覧会を展開。同時に、歴史的建造物等を開きながら、アートと地域との連携を図る「ランドマークプロジェクト」の第5弾を開催します。



© BankART1929

会 期 8月1日(金) — 11月3日(月・祝) 休場日 第1・3木曜日  
 開場時間 10:00—19:00  
 会 場 BankART Studio NYK、関内外地区の歴史的建造物  
 及び店舗、空き地、空きビル他  
 料 金 有料(1,000円/パスポート制) / 中学生以下無料  
 ※本展とのチケット連携あり  
 主 催 BankART1929  
 お問い合わせ TEL045-663-2812 <http://www.bankart1929.com/>

はつこう ひのでちょうちく

## ■初黄・日ノ出町地区

仮想のコミュニティ アジア — 黄金町バザール2014

2008年より開催しているアートフェスティバル。アジアを中心とした国内外の若手アーティスト約30組の作品を黄金町の街中に展開し、「仮想のコミュニティ」について考える場を作ります。



Photo: Yasuyuki Kasagi

会 期 8月1日(金) — 11月3日(月・祝) 休場日 第1・3木曜日  
 開場時間 11:00—19:00  
 会 場 京急線「日ノ出町駅」から「黄金町駅」の間の高架下スタジオ  
 周辺のスタジオ、その他屋内外  
 料 金 有料(700円/パスポート制) / 中学生以下無料  
 ※本展とのチケット連携あり  
 主 催 認定NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター  
 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会  
 お問い合わせ TEL 045-261-5467 <http://www.koganecho.net/koganecho-bazaar-2014/>

## ■象の鼻テラス

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2014

「障害者」と「多様な分野のプロフェッショナル」の協働から生まれる現代アートの国際展です。

3年ごとの発展的開催を見据え、その第1回目として多彩なプロジェクトを展開します。

SLOW LABEL THE FACTORY 2  
Photo: 427FOTO

会 期 8月1日(金) — 11月3日(月・祝) 期間中無休  
 ※内コア期間 [ 8/1(金) — 9/7(日) ]  
 開場時間 10:00—18:00  
 会 場 象の鼻テラス、象の鼻パーク  
 料 金 無料  
 主 催 横浜ランデヴープロジェクト実行委員会  
 特定非営利活動法人スローレーベル  
 お問い合わせ TEL 045-661-0602 <http://www.zounohana.com/>



### スマートイルミネーション横浜2014

2011年より開催している横浜の都心臨海部で新たな夜景の創造を試みるアートイベント。LED照明や太陽光発電など、省エネルギー技術の活用をテーマに開催します。



SMART ILLUMINATION YOKOHAMA 2013  
Photo: AMANO STUDIO

会 期 10月30日(木) — 11月3日(月・祝) 期間中無休  
開場時間 17:00—22:00(予定)  
会 場 象の鼻パーク他  
料 金 無料  
主 催 スマートイルミネーション横浜実行委員会  
お問合せ <http://www.smart-illumination.jp/>

※他、9月12～14日にポート・ジャーニー・プロジェクト ディレクターズ・ミーティングを実施予定。

### ■急な坂スタジオ

急な坂スタジオ×マームとジプシー『歩行と移動』

急な坂スタジオのサポートアーティストが横浜の街にかかわる5つのモチーフを元に作った映像作品を市内各所に展示し、思いもよらない形や場所で作品に出会うきっかけを作ります。



© Takaki Sudo

会 期 9月1日(月) — 30日(火)(予定) ※休場日・時間未定  
会 場 横浜市内各所  
料 金 無料  
主 催 急な坂スタジオ  
お問合せ TEL 045-250-5388 <http://kyunasaka.jp/>

### ■ヨコハマ創造都市センター (YCC)

Find ASIA

アーティストがプロデュースするカフェ&ラウンジをオープン。日中韓の現代アートの展示やスクールイベントなどさまざまなイベントを同時開催し、人が交流する場を提供します。



会 期 8月1日(金) — 11月3日(月・祝)  
休場日 第1・3木曜日および施設点検日  
開場時間 11:00—19:00  
会 場 ヨコハマ創造都市センター (YCC)  
料 金 無料  
主 催 ヨコハマ創造都市センター (YCC) ([公財] 横浜市芸術文化振興財団)  
お問合せ TEL 045-221-0325 <http://ycc.yafjp.org/>



## 小・中・高生のためのプログラム

ヨコハマトリエンナーレ2014では、小学生・中学生・高校生が交流しながら、本格的な現代アートの世界を体験するプログラム「夏の教室」を実施します。

### 夏の教室

「子どもによる、子どものための」夏休み特別企画。中高生が、自分たちの眼と感性でヨコハマトリエンナーレ2014を見つめ、その発見を小学生に伝えるプログラムを実施します。

#### 夏の教室①「中高生のためのヨコトリ教室」(中高生対象)

横浜美術館のエデュケーターとともに、ヨコハマトリエンナーレ2014のテーマや現代アートに親しむワークショップ形式のプログラム。夏休み前から準備を始め、小学生と展覧会会場をめぐる「ヨコトリ号子ども探検隊」を自ら企画、実施します。5～10月まで、全11回のコースです。

日時 [入門編] 5/18(日)、6/15(日)、7/6(日)、7/22(火)、8/4(月)、8/11(月)、8/12(火)

いずれも 10:15-12:15

[航海編] ① 8/18(月)、8/19(火) ② 8/24(日)、8/25(月) いずれも 9:15-14:15

[記録編] 9/7(日)、10/19(日) いずれも 10:15-12:15

#### 夏の教室②「ヨコトリ号子ども探検隊」(小学校高学年対象)

「中高生のためのヨコトリ教室」に参加した中高生が「船長」となって、小学生の「クルー」とともにヨコハマトリエンナーレ2014の会場を冒険します。おとなの解釈とは一味違うギャラリートัวร์とワークショップを実施します。

日時 ① 8月18日(月)・19日(火)

② 8月24日(日)・25日(月)

\*各回2日間連続、いずれも 9:45-13:45

#### 「夏の教室①②」について

会場 横浜美術館

参加料 無料

申込方法 ヨコハマトリエンナーレ2014 公式ウェブサイト、または、横浜美術館ホームページ「ワークショップ\_展覧会関連」の「申込フォーム」からお申込みください。

申込期間：① 4/24(木)まで ② 6/1(日)～7/24(木)

## 横浜トリエンナーレサポーター

横浜トリエンナーレは第1回展より、サポーター(市民ボランティア)の支援のもと運営されてきました。市民ならではの視点で来場者サービスを充実したり、アーティストと交流する機会を設けたりなど、さまざまな場面でサポーターは活躍しています。ヨコハマトリエンナーレ2014では、サポーターが主体的に取り組む活動、本展に関わるプログラムに参加する活動、支援する活動など、サポーター一人ひとりの関心と関わり方によって参加できるプログラムを提供しています。本プログラムは横浜トリエンナーレサポーター事務局が運営しています。

お問合せ 横浜トリエンナーレサポーター事務局 TEL 045-325-8654 <http://www.yokotorisup.com/>



## チケット情報

前売券発売開始 2014年4月25日(金)

チケット販売窓口 鉄道駅売店、各種プレイガイド等で発売

※他詳細はヨコハマトリエンナーレ2014公式ウェブサイトをご覧ください。

チケット販売に関するお問合せ

チケット販売センター TEL 045-461-3636 (株式会社相鉄エージェンシー内)

平日 10:00-12:00 / 13:00-17:00

		一般	大学・専門学校生	高校生
連携セット券*	ヨコハマトリエンナーレ 2014 +	前売券 2,000 円	1,500 円	1,100 円
	創造界隈拠点連携プログラム (BankART Life IV / 黄金町バザール 2014)	当日券 2,400 円	1,800 円	1,400 円
単体券	ヨコハマトリエンナーレ 2014	前売券 1,400 円	900 円	500 円
		当日券 1,800 円	1,200 円	800 円

※ ヨコハマトリエンナーレ 2014 と創造界隈拠点連携プログラム「BankART Life IV」及び「黄金町バザール 2014」にご入場いただけるお得なセット券。連携セット券は各連携会場で会期中有効のフリーパスと引き換えます

- ・ ヨコハマトリエンナーレ 2014 チケットは、1会場1日有効
- ・ 中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
- ・ 会場で20名以上同一券種の当日券購入の場合、それぞれ200円引き

## 交通アクセス・案内図

横浜美術館 横浜市西区みなとみらい 3-4-1

みなとみらい線(東急東横線直通)「みなとみらい駅」下車、

3番出口より徒歩3分

JR線および横浜市営地下鉄線「桜木町駅」下車、

「動く歩道」を利用、徒歩10分

新港ピア(新港ふ頭展示施設) 横浜市中区新港 2-5

みなとみらい線(東急東横線直通)「馬車道駅」下車、

6番出口より徒歩13分

※主会場と BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区を結ぶ  
会場間無料バス運行予定





支援／特別協力／後援／認定／協賛／協力／寄付

支援  文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）

特別協力 独立行政法人国際交流基金

後援 外務省、神奈川県、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

認定 公益社団法人 企業メセナ協議会

協賛



株式会社トロンマネジメント、みなとみらい二十一熱供給株式会社

協力  住友ベークライト株式会社



ターナー色彩株式会社

寄付 日揮株式会社



## 開催実績

開催年	2001年(第1回)	2005年(第2回)	2008年(第3回)	2011年(第4回)
テーマ/ 展覧会タイトル	メガ・ウェイブ —新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE タイムクレヴァス	OUR MAGIC HOUR —世界はどこまで 知ることができるか?—
ディレクター/ キュレーター	[アーティストック・ディレクター] 河本信治 建畠 哲 中村信夫 南條史生	[総合ディレクター] 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	[総合ディレクター] 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ペアトリス・ルフ	[総合ディレクター] 逢坂恵理子 [アーティストック・ディレクター] 三木あき子
会期 (開場日数)	9月2日—11月11日 (67日間)	9月28日—12月18日 (82日間)	9月13日—11月30日 (79日間)	8月6日—11月6日 (83日間)
主会場	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下ふ頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組(79作家) / 1コレクション
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円
総入場者数 (有料入場者)*	約35万人 (約15万人)	約19万人 (約16万人)	約55万人 (約31万人)	約33万人 (約30万人)
チケット販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚
ボランティア登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人
主催者	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会 共催：(公財)横浜市芸術文化振興財団

\*入場者数は延べ人数

## 横浜トリエンナーレ組織委員会 (2014年4月1日現在)

横浜トリエンナーレ組織委員会			展覧会企画体制	
名誉会長	代表	林 文子 (横浜市長) 澄川喜一 (〔公財〕横浜市芸術文化振興財団理事長) 初井勝人 (NHK会長) 木村伊量 (朝日新聞社社長)	アーティストック・ディレクター	森村泰昌
委員	委員長	逢坂恵理子 (横浜美術館館長) 中山こずゑ (横浜市文化観光局長) 風谷英隆 (NHK事業部長) 宮田謙一 (朝日新聞社企画事業本部長) 櫻井友行 (〔独法〕国際交流基金理事)	アソシエイト (作家・作品選定過程においてアーティストック・ディレクターを支援する専門家)	天野太郎 (横浜美術館) 大館奈津子 柏木智雄 (横浜美術館) 神谷幸江 (広島市現代美術館) 林 寿美 (インディペンデント・キュレーター)
	外部有識者	高階秀爾 (大原美術館館長) 建畠 哲 (京都市立芸術大学学長) 宮田亮平 (東京藝術大学学長)	会場空間構成	日笠直彦 (日笠建築設計事務所)
	アーティストック・ディレクター	森村泰昌		
	オブザーバー	舟橋 徹 (文化庁文化芸術文化課長)		
	監事	渡辺好史 (税理士)		
<b>事務局</b>				
	開催本部長	矢野修司 (横浜市)		
	事務局長	帆足亜紀 (〔公財〕横浜市芸術文化振興財団)		
	事務局次長	富士田美枝子 (横浜市) 天野太郎 (〔公財〕横浜市芸術文化振興財団) 福山浩一郎 (NHK) 帯金章郎 (朝日新聞社)		





【本リリースに関するお問合せ】

ヨコハマトリエンナーレ2014 広報事務局（株式会社ユース・プランニング センター）

担当：浅野・池袋・岩川・原田

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷 1-3-9 東海堂渋谷ビル 3F

TEL：03-3486-0575 FAX：03-3499-0958 E-mail：yt2014@yocpr.com

【ヨコハマトリエンナーレ2014 に関するお問合せ】

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 担当：武井

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 3-4-1 横浜美術館内

TEL：045-663-7232（平日 10:00～18:00） FAX：045-681-7606

E-mail：press@yokohamatriennale.jp